

プランクトン調査結果のお知らせ

浦場、大鹿周辺の潮色が悪いとの連絡を受け、平成25年7月16日午前11時から浦ノ内湾の調査を実施しましたので、結果をお知らせします。

検鏡の結果、魚類に対して非常に有害なシャットネラ属が最高8,700cells/ml確認され、漁業被害が想定される細胞密度を超えていました。餌止めを行う等、慎重な養殖管理をお願いします。

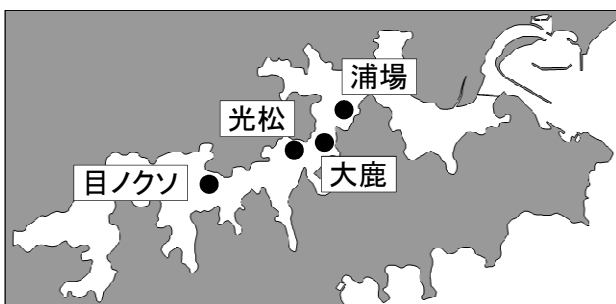
海や養殖魚の状態に変化や不安を感じた時は、中央漁業指導所か水産試験場まで連絡してください。

【注 意 点】

- プランクトンは鉛直運動するため、午前中潮色が良くても、午後から着色する危険性があります。
- プランクトンは潮流や風の影響で移動する危険性があります。

	水深	シャットネラ属	カレニア・ミキモトイ	ディクチオカ・フィビュラ	ケラチウム属	ケイ藻類
目ノクソ	0m	2	0	0	0	110
	2m	161	1	0	0	420
	5m	324	11	8	6	860
光松	0m	2,510	0	0	0	140
	2m	1,270	5	15	1	420
	5m	308	4	4	0	1,920
大鹿	0m	19	0	0	0	140
	2m	8,700	1	1	0	940
	5m	344	1	8	0	1,880
浦場	0m	4,960	0	0	0	510
	2m	3,920	0	0	0	1,260
	5m	410	0	3	1	1,820

(cells/ml)



漁業被害が想定される細胞密度

- シャットネラ属: 10~100cells/ml(へい死)
- カレニア・ミキモトイ: 数百~数千cells/ml(へい死)
- ディクチオカ・フィビュラ: 赤潮発生時(へい死)
- ケラチウム属: 100cells/ml(餌食いの悪化)